

【研究背景】

近年ネイル需要は上昇傾向にあり、市場規模も拡大している。しかし市場規模の拡大はかつての成長より緩やかになっている。この背景にはネイル産業の中心となるネイルサービス市場でジェルネイルを中心としたメニューの低価格化や、マンションや自宅でサービスを行う小規模サロンの増加が挙げられる。また、消費者向けネイル製品市場ではセルフケアやセルフネイルの広がりによってネイル製品の市場も拡大傾向にある。ネイル教育市場に関しては少子化やネイリスト志望者数の減少により若干の低迷が見られるものの、ネイルサービス市場と消費者向けネイル製品市場での拡大が大きい市場全体としては拡大している、というのが現状である。

【研究目的】

その年、そのシーズンの流行色や社会情勢、ファッショントレンドなどの要素とネイルデザインの流行の関連性を調査することで、経営不振なサロンへネイルトレンドについての情報取得方法やネイルのデザイン構築の方法についての示唆を与える。

【研究方法】

2011年～2020年までの流行色や社会情勢、ファッショントレンドなどに関連してネイルトレンドがどのように変化しているかを調査する。

【研究内容】

各年度、ネイルクイーン受賞者、各シーズンのネイルトレンドテーマ、流行色、社会情勢、ファッショントレンド、ネイルクイーン受賞者をまとめる。ここでは、2016S/Sのネイルトレンドテーマ、2016年の流行色、社会情勢、ファッショントレンド、ネイルクイーン受賞者を挙げる。

2016S/S ネイルトレンドテーマ



出典：NPO法人日本ネイリスト協会、「ネイルトレンド | NPO法人日本ネイリスト協会」<https://www.nail.or.jp/nailtrend/index.html>

2016年の流行色



2016年の社会情勢について

・リオ五輪の開催された年であるためスポーティーさやヘルシーさを表現している。また異文化と和のコラボレーションも五輪が影響している。

2016年のファッショントレンドについて

・大人の女性を演出するとろみシャツやリブニットが流行したため、女性らしさを強調したデザインが多くみられる。

2016年のネイルクイーン受賞者について

・女優部門は河北麻友子、モデル部門は藤田ニコル、タレント部門はダレノガレ明美、協会特別賞は真矢ミキである。

【研究結果】

各年のネイルトレンドの特徴とネイルクイーン、流行色、社会情勢、ファッショントレンドの関連性を以下の表にまとめる。◎は「かなりあり」、○は「あり」、△は「あまりない」、×は「全くない」とする。

ネイルトレンドとの関連性

	ネイルクイーン	流行色	社会情勢	ファッショントレンド
2011年	×	×	◎	○
2012年	×	×	◎	○
2013年	○	×	○	×
2014年	×	×	○	◎
2015年	×	×	◎	○
2016年	×	×	◎	○
2017年	×	×	◎	×
2018年	×	◎	×	×
2019年	×	×	◎	×
2020年	×	×	◎	×

出典：二次資料をもとに筆者作成

2016年S/Sはオリンピックの開催された年に共通するデザインの特徴が見られたことなどから、最もネイルトレンドに関連性がある要素は社会情勢であるという結果に至った。逆に流行色とは関連性が見られなかったが、流行色は主にファッショントレンドに深く関わる要素であるため、あえてファッションと同じ色をネイルに使用するよりも、流行色を取り入れたファッションとのコーディネートを楽しむためにネイルトレンドに流行色をあまり取り入れない。

2011年から2013年のネイルトレンドは使用する色を一色に定めなくて多色でテーマを表現している傾向にあったが、2014年以降は使用する色が限定されている。今後、ネイルトレンドを予測するのであれば、ファッショントレンドと比較してテイストが似ているか、ファッショントレンドカラーと合わせて浮かぬか、などを考慮すると効果的であると考えられる。また、ネイルトレンドとの関連性が多く見られたのは社会情勢であったことから、ネイリストは社会情勢を把握することが求められる。